

【4学年】アウトライン作成

【題材テーマ】 九会っ子福祉研究所～身体障がい者福祉・高齢者福祉を調べよう～

プレ 教科学習	STEAM単元【●時間計画】 ★【ユーザー設定(誰の・どんな課題を解決するか)を、どこで設定するか考えて記入する。】		関連・協力する人材・施設等
	1. 探求し、知る学び	2. 発想し、創る学び	
【科学・数学】教科 算数：折れ線グラフ 一億をこえる数 割合	① 問題発見 課題設定 ・視覚障害者スポーツであるゴールボール体験を通し、障害者の日常生活への不安を想像する。 ・「福祉」の言葉の意味を知り、障害者のためにどんな工夫がされているかを調べるといった課題を設定する。	⑤ 共感 ・地域にある介護施設「なごやか」の利用者さんと交流したり、所長さんの話を聞いたりすることを通して、高齢者が抱える問題に気付く。	【連携する地域資源】 ・介護施設「なごやか」
【芸術】教科 国語：お礼の気持ちを伝えよう 短歌・俳句に親しもう(1) あなたなら、どう言う	② 情報収集 ・言語障害、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害の中から詳しく調べたいテーマを1つ選択し、インターネットや本を使い、①困り感②困り感を解消する福祉について調べる。	⑥ 問題定義 ・介護施設の利用者を楽しませる何かをグループで考える。	
【技術・工学】教科 プログラミング教育(バスケット、クープ) ロイロノートの活用(スライド作成)	③ 整理・分析 ・レポート用紙に、調べて分かったことをメモする。 ・必要な画像をロイロノートに保存する。	⑦ 発想 ・プレスト	【サポーター】 ・「なごやか」の所長さん
	④ まとめ ・表現 ・ロイロノートでスライドを作成し、他のテーマを選んだ友達に自分が調べて分かったことを発表する。	⑧ プロトタイプ (試作品) ・プログラミングでゲームを作成する。 ・Oから遊びを創り上げる。 ・元々ある遊びに、オリジナルの工夫を加えて作り直す。	【アウトプットの想定、期待する児童の姿】 ・自分たちなりに発想した遊びやゲームを、「なごやか」の利用者さんと一緒に楽しむ。
		⑨ テスト ・「なごやか」の利用者さんと再び交流し、お楽しみ会を開く。 ・お楽しみ会の中で、自分たちが考えた遊びやゲームを、利用者さんと一緒に楽しむ。	

【4】年1学期 単元名 (題材・テーマ)		九会っ子福祉研究所～身体障がい者福祉を調べよう～										
児童の実態	長所	○様々なことに対して、前向きに取り組むことができる。 ○ロイロノートを使って情報をまとめることができる。										
	課題	▲見通しをもって活動することが苦手である。 ▲必要な情報に辿り着くことが苦手										
目標	アウトプットの想定 期待する児童の姿	必要な情報をまとめ、相手に伝えるためのスライドを作る。 自分で調べたこととは違うものを調べた子に対してスライドを用いて分かりやすく伝えることができる。										
	知識・技能	・身体障害者が抱える困り感や、それを解消するための福祉が分かる。										
	思考・判断・表現	・身体障害者福祉について自分が調べたいテーマに合った情報を集め、スライドにまとめることができる。 ・相手に分かりやすく伝えるために、示す情報を選んで発表することができる。										
	学びに向かう態度	・友達の発表を聞き、違う種類の身体障害者福祉に共通性を見いだそうとしている。 ・発表会に向けて、自己目標を立てて調べ学習やまとめ活動に取り組もうとしている。										
学習活動 計画		時数 【全〇時間】	学習活動				・指導の手立て・留意事項 ・連携する地域資源・サポーター			関連教科・単元		
	① 問題発見 課題設定	1	・ゴールポールを通して、身体障害やそれに対する福祉があることを知る。 ○体験を導入にしたことで、問いが生まれ、福祉に対する興味関心を引き出すことができた。				【サポーター】ゲストティーチャー(石谷さん)					
	② 情報収集	6	・「視覚」「聴覚」「肢体不自由」「言語障害」から一つ選び、生活の中でどのような不自由があるかやどんな福祉があるかを調べる。 ○テーマを自由に選ばせたが、各テーマがおおよそ同じ人数分布となった。 △テーマによっては、児童が得られる情報量が少なかった。また、学校図書館も内容に偏りがあり、十分に情報を得られない児童もいた。情報収集が苦手な児童にとって、インターネットを利用した情報収集は難しい様子であった。				【サポーター】担任 【手立て】・効率のよい検索の仕方を知らせる。 ○インターネットの検索方法や、意味が分からない言葉に出会った時にどのように調べればよいか分かるガイドブックを用意し、いつでも児童が自分で確認できるようにしたこと、進んで調べ学習を進めることができた。					
	③ 整理・分析	4	・自分が調べて分かったことをを友だちにわかりやすく伝えるために、スライドにまとめる。 ○ロイロノートでスライドを作成したことで、児童同士の共有が簡単にできた。				【サポーター】担任 ○ロイロノートでのスライドづくりは3年生の時に経験済みだったので、スライドをつくることに対してスムーズに進めることができた。 △一方で、得た情報の生かし方が分からない児童にとって、簡潔にまとめることが難しい様子であった。					
	④ まとめ 表現	2	・調べて分かったことを、友達に向けて発表する。 ○参観日に発表会を設定したことで、児童が調べたことを家族にも直接目で見てもらうことができた。 △保護者が入ったことで、発表後、児童と保護者が話し込んでしまい、指示していた活動に十分に組み込まない児童が数名いた。				【留意事項】・違うテーマを選んだ児童同士でグループを組むことで、聞く必要感や伝える必要感をもたせる。 ○『感想レベル』を示したことで、少しでも発表内容に迫る聞き方をしようと努める様子が見られた。 ○発表終了後、「障害がある人だけが困っているのかな?」と問いかけたことで、児童から「高齢者も困っているのではないか」という考えが出され、次の活動に繋げることができた。					
【教科】 単元名	【国語】 漢字辞典の使い方	【国語】 思いやりのデザイン	【国語】 お礼の気持ちを伝えよう	【国語】 新聞を作ろう	【道徳】 ちこく	【道徳】 決めつけないで	【道徳】 ええことするのはええもんや	【】	【】	【】	【】	【】
身につける 力 【知・技】 【思・表】	漢字辞典の使い方を理解し使うことができる。【知・技】	考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。【知・技】 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【思・表】	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができる。【思・表】 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。【知・技】	相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。【思・表】 比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。【知・技】	相手の立場や状況を理解することの大切さについて考えることを通して、互いを理解し尊重し合おうとする態度を養う。	「わたし」の気持ちの変化を考えたことを通して、誰に対しても偏見を持つことなく、公正公平な態度で接しようとする態度を養う。	人に親切にすることは立派なことだが、それだから親切にするのではなく、助けられた人がうれしいから親切にするのだということに気づき、進んで親切にしようとする態度を養う。					

【4】年2学期 単元名 (題材・テーマ)		九会っ子福祉研究員～高齢者福祉編～									
児童の実態	長所	○様々なことに対して、前向きに取り組むことができる。 ○ロイロノートを使って情報をまとめることができる。									
	課題	▲見通しをもって活動することが苦手である。 ▲必要な情報に辿り着くことが苦手									
目標	アウトプットの想定 期待する児童の姿	施設を利用している高齢者の方を楽しませるためのプログラムづくり									
	知識・技能	・地域には、高齢者のための福祉施設(介護施設)があり、一人一人の存在が守られていることを理解している。									
	思考・判断・表現	・高齢者施設の利用者との交流会について、相手に応じた関わり方を考えている。 ・課題の解決に向けたプログラム作成に当たり、何をやるのか、何のためにやるのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。									
	学びに向かう態度	・高齢者施設の利用者との交流会に当たって、相手の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。 ・高齢者施設の利用者との交流会を成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。									
学習活動 計画	★ ユーザー設定	2	・高齢者施設に訪問し、高齢者と触れ合うことで実際に困っていることを知る ・高齢者施設の所長さんから、利用者さんを楽しませる会を開いてほしいと依頼を受ける ○9月に交流をしたことで、子どもたちに「また交流したい」という思いをもたせることができた。 ○所長さんからの依頼をビデオレターで紹介したことで、子どもたちの意欲に繋がった。				【指導の手立て・留意事項 ・連携する地域資源・サポーター 【サポーター】なごやか所長さん・施設のスタッフさん・担任				関連教科・単元
	⑤ 共感	1	・高齢者の方が困っていたことや困難そうなところを確認、全体で共有する。				【サポーター】担任				
	⑥ 問題定義	1	・高齢者の方に楽しんでもらうためには何が良いか考える。 ○9月の交流後すぐに関わりについて振り返りをしたことで、用意するゲームは、動きが激しくなくルールが分かりやすいものである必要があることに気付かせることができ、ゲームの選定の基準を共通理解することができた。				【サポーター】担任				
	⑦ 発想	2	・グループ分けし、グループごとにプログラムの内容を作る。 ○個々でネタ集めをする→グループ全体で共有する→担当者ごとにゲームを決定する流れでスムーズに決まった。 △ゲームを選ぶ上で、結局ネットが便利で、ネットのみを活用した。他の情報の集め方も示したかった。				【サポーター】担任				
	⑧ プロトタイプ (試作品)	10	・作ったプログラムをグループごとに見合い、アドバイスし合う。・受けたアドバイスをもとに、プログラムを改良する。 ○出来た企画書を、一度所長さんに見ていただきアドバイスをもらったことで、準備を進める前に子どもたちの手で軌道修正ができていた。 ○互いに見合う時間を設定したことで、ゲームを改良する姿が見られた。 △ゲームの内容を用意することに手一杯で、関わり方で気を付けることは、一人一人企画書に書くことはできていても、それについて意識させる手立てがなかった。 △子どもたちは一生懸命道具を手作りしていたが、「クリスマス会」であるということ意識させることが遅れたため、道具の見た目にこだわらなかった。(段ボールそのままなど)				【サポーター】なごやか所長さん・担任・他グループ児童				
	⑨ テスト	2	・施設へ行き、会を開く ・会を開くことで利用者の方々に喜んでもらえたか等の振り返りをする。 ○利用者さんが主役であるという意識が子どもたちの中にしっかりあり、主催側の立ち居振る舞いができていた。 ○もし時間が余った場合のことも考えさせていたこともあり、予定よりも早く終わったグループは自分たちなりに工夫して時間を繋いでいた。 △利用者さんと関わる上で、話すスピードや声の大きさを意識させたかったが、ゲームの進行との両立は難しかった。(子どもたちはよくやっていた)				【サポーター】施設のスタッフさん・担任				
【教科】 単元名	道徳 家族の一員として	道徳 ヒキガエルとロバ	道徳 お父さんのじまん	道徳 心と心の握手	【国語】 クラスみんなで決めるには	【算数】 がい数					
身につける 力 【知・技】 【思・表】	「ぼく」の思いの変化を通して、家族の一員として役割を果たすことのうれしさに気づき、積極的に家族と関わり楽しい家庭生活を気づいていこうとする意欲を高める。	ヒキガエルをいじめめることを楽しんでたアドルフたちの反省を通して、すべての生き物の命を大切にしようとする態度を養う。	自分の郷土のよさを見つめ、それを受け継いできた人々の努力に気づき、郷土に愛着を感じる心情を育てる。	見守ることも新設の一つであることに気づき、思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる。	目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。	目的に応じて四則計算の結果の見積もりをすることができる。					

